2025.1　No.311

兵庫の林業

「ひょうごの木」Creation Baseの創設
針葉樹人工林から広葉樹林への樹種転換後のいま

もくじ

新年のあいさつ・・・・・・・1～2
令和6年度県林業賞受賞者・・・・3
令和6年度ひょうご森づくり活動賞・4
新たな指導林家・青年林業士の紹介・4
林業経営コンクール知事賞・林業労働賞・兵庫県林業士・・・・・・・5
〈普及だより〉
「近畿初のドローンによる除草剤散布の実施と効果研修について」・・・6
〈技術シリーズ〉
針葉樹人工林から広葉樹林への樹種転換後……のいま・・・・7～8
「ひょうごの木」Creation Base創設・9
「ひょうごの木の物語」第11回・・10
非住宅木造建築研修会開催報告・11
県産広葉樹苗木生産者育成研修会開催報告・12
2025農林業サンセス・・・・・12
兵庫JCC協同組合研究・交流会を開催しました・・・・・・・13～14
木材市況・住宅着工数等の報告・15
関西経済連合会 〝企業の森づくり〟体験会・・・・・・・・・15～16
兵庫県立森林大学校学生募集（裏表紙）
題字・・兵庫県知事　齊藤元彦氏

表紙の写真

JR神戸駅から北へ徒歩3分、楠公さんの愛称で親しまれている湊川神社の本殿前に、高さ2.4m、幅3mの大きな絵馬が登場しました。絵馬には、会津張り子のヘビをモチーフに、青、赤、緑で彩られ、日本画家の熱田守さん（稲美町）が描いたものです。脱皮して成長するヘビは復活や再生の意味を持つとされ「未来は開けている」との思いが込められています。

新春を迎えて

一般社団法人　兵庫県林業会議会長

石川憲幸

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、お健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、元日から能登半島地震に見舞われ、復旧の兆しが見えた夏の後半には、奥能登豪雨にて山地災害や仮設住宅などの浸水被害が発生しました。あらためて被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、一日でも早い復旧復興の実現と支援の輪が拡がりますよう、お祈りいたします。

今年は阪神・淡路大震災から30年の節目を迎えます。未曽有の災害から得た経験と教訓を活かし、近未来に来ると言われている南海トラフ地震に対し、十分な備えをしておくことが重要です。

さて、世界各国では平均気温の記録が更新され、2023年が『史上最も暑い１年』とされたところですが、2024年は早くもその記録を塗り替える可能性が高いと言われています。昨年11月には、アゼルバイジャンのバクーでCOP29が開催され、温暖化による気候変動に歯止めをかけるため、途上国への資金支援やパリ協定を達成するための実現目標の見直しなどの議論がされています。

このようなとき、森林は、国土や県土の３分の２を占め、樹木が大気中の二酸化炭素を吸収し、立木や木材として固定するとともに、バイオマス燃料として化石燃料の代替えを行う極めて重要な機能を持ち、地球温暖化防止に貢献しているばかりか、人間はじめ多くの生物の命の源となっています。われわれ森林林業の携わる者は、現在の森林資源を将来にわたり持続可能なものとして次代につなぐ使命を持っています。

兵庫県では、県独自の『災害に強い森づくり』を進めて来られ、森林の防災機能の向上など県土の強靭化に取り組まれてきました。今後も、台風等による大雨の激化や頻発化を踏まえた次期対策のさらなる取組を期待します。

また、森林資源の循環利用を促進するため、林業の収益性を改善する素材生産コストの縮減や、伐採地の確実な更新を行うため、造林保育費用の縮減や獣害対策の徹底を図る必要があります。森林林業関係者の一層の奮闘と創意工夫を期待いたします。

今年は暦の上では、「乙巳（きのとみ）」です。努力を重ね、物事を安定させていく縁起の良さをあらわす年とされています。暦どおり素晴らしい年になりますよう、皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

令和７年新春メッセージ

躍動する兵庫へ　さらなる挑戦

兵庫県知事　齋藤元彦

新年あけましておめでとうございます。

県民の皆様のご負託をいただき、昨年11月より知事として２期目のスタートを切りました。新たな施策や改革に取り組んだ１期目の挑戦を緩めることなく、兵庫の未来を切り拓いていきます。

第１は、若者が輝く兵庫づくり。教育費の負担軽減や教育環境の充実、不登校対策の強化、不妊治療支援の充実など、若者の不安を解消し、一人ひとりが力を発揮できる環境を整えます。

第２は、誰もが活躍できる兵庫づくり。万博を機に、地場産業や農業、芸術文化など県内各地の活動現場へ国内外から多くの人々を誘うひょうごフィールドパビリオンのほか、次世代産業や有機農業の振興など、多様な活躍の場を広げます。

第３は、安全安心に暮らせる兵庫づくり。阪神・淡路大震災から30年の節目を迎える中、震災の経験と教訓を次の世代につなぐ取組を強化します。特殊詐欺被害対策などの暮らしの安全を守る取組にも力を入れます。

持続的な森林づくりも大切です。木材供給をはじめ、水源かん養や防災、地球温暖化防止などの多面的機能を守る観点から、植林・保育・伐採・利用の林業サイクルが継続する「資源循環型林業」を構築していかねばなりません。間伐主体の施業に加え、主伐・再造林などの森林整備や原木生産の効率的かつ計画的な推進、県産木材の利用拡大、担い手の確保・育成にしっかりと取り組んでまいります。

果敢な挑戦で新しい時代をひらく「躍動する兵庫」の実現には、県民の皆様と力を合わせたオール兵庫での取組が欠かせません。どうぞご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

令和６年度　兵庫県林業賞受賞者

兵庫県林務課

兵庫県林業賞　　宍粟市　東　　里　司 氏

主なご功績

「原木・木質バイオマス燃料の安定供給力強化のための林建協働体制構築による地域林業への貢献」

昭和63年に株式会社山﨑木材市場に入社し、現在まで原木丸太の調達、販売業務に従事され、現在は専務取締役として会社経営の一翼を担われています。その後、平成22年に県指導林家に認定され、地域の素材生産業者や森林所有者に対し、儲かる林業の実現に向け、採材方法の指導などを行ってこられました。また、原木や木質バイオマス燃料の安定供給力強化のため、素材生産業や建築業者等による林建協働体制を構築して路網整備に取り組み、地域林業の振興に貢献されました。

兵庫県林業賞　　豊岡市　阪　井　　裕 氏

主なご功績

「優れた原木しいたけ生産の実践と地元地域への生産技術の普及に対する貢献」

昭和42年から長年にわたり、地元産材のほだ木を使った原木しいたけ生産に取り組まれてこられた。露地での自然発生に向けたほだ木の水分量の調整や、乾燥しいたけの生産に向けた乾燥時間、温度管理に高い技術を確立されています。また、但馬地域北部の原木しいたけ生産者で構成されている「北但きのこ生産振興協議会」では長年役員を担い、地域での原木しいたけの生産振興に努めてこられたほか、新規参入者への技術の継承や生産者の技術向上にも貢献されてきました。

兵庫県林業賞　　朝来市　日本土地山林株式会社　山林事業部

主なご功績

「森林認証や先端技術導入など先進的かつ持続的な森林経営の実践による地域林業への貢献」

昭和６年に社有林の管理のため設立され、管理面積は1,922haに及びます。平成21年には環境調和型の持続的な森林経営を証明するFSC森林認証を取得され、環境に配慮した森林管理のモデルとなっています。また、急傾斜地に対応した車両系作業システムを導入され、県内で唯一となる欧州製の高性能タワーヤーダを導入するなど、路網整備が困難な急傾斜地での模範的な森林管理を実行されてきました。さらに、ドローンや３Dレーザースキャナシステムなどの先端技術を導入して活用し、地域林業を先導するとともに、学生のインターンシップ受け入れや小学生を対象とした環境教育にも取り組み、次代を担う人材の育成にも貢献されてきました。

令和6年度ひょうご森づくり活動賞

丸山湿原群保全の会（宝塚市）

主なご功績

「丸山湿原群」は宝塚市北部に位置し、５つの滲水（しんすい）湿原からなる本県最大規模の湿原群です。

「丸山湿原群保全の会」では、平成18年から湿原周辺の樹木伐採や、湿原内のマヌガヤ刈り、それらの湿原外への運び出しなどを定期的に行い、湿原環境の保全に尽力されています。

また、サギソウ開花数調査などの動植物調査や、地元・宝塚市立西谷小学校３・４年生を対象とした環境学習の受入れなどにも積極的に取り組まれています。

このような長年にわたる継続した活動が評価され、（公社）兵庫県緑化推進協会主催の「ひょうご森づくり活動賞」を受賞されました。

令和6年度ひょうご森づくり活動賞

太田の森保全の会（丹波市）

主なご功績

平成25年９月から丹波市山南町太田地区の太田自治会及び慧日寺の山林の整備に取り組んできた太田の森保全の会が「県民総参加の森づくり」に貢献した優れた団体として（公社）兵庫県緑化推進協会主催「ひょうご森づくり活動賞」を受賞されました。

同会は、森林整備活動を通して、先人の残した山林を保全するとともに、森林の多面的機能の維持及び住民の交流を図っています。

設立以降、長年に渡って上記の活動を継続したことが評価され、11月３日に宝塚市で開催された「ひょうご里山フェスタ2024」式典において、服部副知事より表彰盾が授与されました。

新たな指導林家・青年林業士の紹介

兵庫県林務課

令和６年10月に認定された新たな指導林家・青年林業士を紹介します。

指導林家　黒 田　道 生 氏
朝来市在住　45歳
黒田伐採工業　代表

黒田氏は、自家所有山林において、祖父・父とともに収入間伐を中心とする林業生産活動に携わるとともに、民間林業事業体や森林組合で素材生産を中心とした業務にも従事して伐木や集材等の現場経験を重ねられ、効率的な素材生産技術を習得されました。

現在は、所有山林経営のため設立した黒田伐採工業の代表を務め、所有山林以外の森林整備や作業道開設にも取り組み、地域をリードする林業指導者として期待されています。

青年林業士　福 原　佳 孝 氏
宍粟市在住　36歳
株式会社福原林業　代表取締役

福原氏は、高校卒業後、地元の林業事業体に就職し、伐採搬出に係る一連の施業技術を習得されてきました。その中で、自らが先頭に立って地域の森林を守り育てていきたいとの熱い思いから、平成30年に福原林業を設立されました。

「山を荒らさない道づくり」を常に心がけ、壊れない作業道でかつ間伐木の搬出効率を高める道づくりを実践されており、地域林業の指導者として今後の活躍が期待されています。

林業経営コンクール受賞者の紹介

兵庫県林務課

知事賞
東河内株山共有林（宍粟市）

東河内株山共有林は、所有森林371haのうち290haを自己管理し、地元林業事業体への委託により森林整備をされており、令和元年度以降、年平均約11ha間伐を実施して約1,500㎥の原木を生産されてきました。

平成23年には、県下第１号となるJクレジット（旧J－VER）の登録を受け、クレジットの販売を行うとともに、クレジット購入企業社員や木造住宅建築予定者を対象とした森林見学ツアーを受け入れ、森林の働きや人工林の現状についての啓発活動にも取り組んでこられました。

農林水産部長賞
養父市森林組合

養父市森林組合は、平成13年に４森林組合が合併して設立され、組合員数3,383名、経営森林面積3,210haを誇り、「魅力ある組合づくり」と地域資源を活かした「未来に繋がる山・森林（もり）づくり」をスローガンとして素材生産業と森林整備事業等に取り組まれており、過去５年間の森林整備面積が４千ha、素材生産量が約８万㎥におよぶ県内有数の事業収益を誇る森林組合です。

若年労働者が不足するなか、長期的な雇用確保に向け、福利厚生面の充実を図るとともに、冬期間の積雪による作業が困難な状況のなか、県中南部での事業確保に努め、雇用の維持に努めてられています。さらに、資源循環型林業の実現に向けて主伐・再造林にも積極的に取り組んでこられました。

令和6年度「林業労働賞」受賞者及び「兵庫県林業士」の紹介

兵庫県林務課

令和６年11月に、「林業労働賞」受賞及び「兵庫県林業士」認定された方々を紹介します。

「林業労働賞」受賞者は、次の６名です。

魚住　周平（中はりま森林組合）
横野　晋助（しそう森林組合）
福澤　克典（しそう森林組合）
小池　政伸（豊岡コウノトリ森林組合）
森川　和哉（北但西部森林組合）
山本　　猛（養父市森林組合）

「林業労働賞」は、森林・林業の担い手である林業労働者の組織的・安定的な確保を図るため、林業労働力の確保・育成に功績のあった方を表彰します。

ひょうご里山フェスタでの授賞式
左から　魚住氏、横野氏、福澤氏、服部副知事、森川氏、山本氏

今回表彰された方々については、地域林業の要として信頼も厚く慕われている存在であり、また発展に向けて大きく貢献されています。

「兵庫県林業士」に認定された方は、次の４名です。

布一　和也（北はりま森林組合）
梅田　幸平（北はりま森林組合）
勝部　大典（有限会社　勝部重機）
大朋　鉄平（朝来森林組合）

「兵庫県林業士」は、県内の林業従事者のうち、森林整備や林業活動の経験が長く、優れた知識や技術を持ち、林業労働者の模範となる方が事業体より推薦され、知事から認定されるものです。

今回認定された方については、地域の林業従事者の中核的存在として、引き続きご活躍いただけることをお祈りしています。

写真左から勝部氏、
服部副知事

普及だより

近畿初のドローンによる除草剤散布の実施と効果研修について

但馬県民局　朝来農林振興事務所

１　はじめに

従来から刈払機を使用して実施されてきた夏場の下刈り作業は、近年の猛暑による熱中症や転倒、近接作業による切創事故等の危険性をはらんだ過酷な作業です。一方、近年ドローンを使ったスマート林業は作業の効率化や低コスト化、労働安全性の向上などに資する作業として注目を浴びています。

そこで、人力下刈り作業の代替として、ドローンを使った除草剤散布を但馬県民局地域躍動推進費（但馬型再造林モデル実証事業）で実施しました。また、その効果についての普及研修を事業主体の日本土地山林㈱山林事業部の協力を得て実施したので報告します。

２　ローンによる除草剤散布の概要

令和４年度に植栽されたスギ造林地0.77haを、わずか59分間で除草剤の散布を完了しました。人力下刈りであれば、３人、２日間はかかると考えられる斜面傾斜約40度の現場です。

（1）事業費　408千円（うちドローン散布360千円
【うち薬剤経費143千円】）
（2）散布日時　令和６年７月23日
（3）場所及び面積　朝来市佐嚢千束97-2
（同社社有林）0.77ha（1工区0.22ha、2工区0.55ha）
（4）除草剤名　ザイトロンフレノック微粒剤
（5）散布量　100kg/ha×0.77ha=77kg
（6）ドローン搭載量　10kg/飛行
（7）飛行回数　９回(１工区３回、２工区６回)
（8）飛行時間　5：05～6：04　59分間
（9）人員６人　（オペレーター、ナビゲーター、監督員、薬剤投入、事業主体２）

ヘリポートとドローン

除草剤散布状況

３　効果研修の概要

散布作業が短く、３か月後の現地の雑草枯損効果も十分で苗木の薬害もないことから、ドローンによる除草剤散布は人力下刈り作業を代替できるものと判断できたため、普及のための効果研修を開催しました。

（1）開催日時　令和６年12月２日
（2）開催場所　社有林（除草剤散布現地）他
（3）出席者　日本土地山林㈱山林事業部、大同商事㈱【除草剤販売】、保土谷アグロテック㈱【薬剤製造】、但馬管内森林組合、森林林業技術センター、豊岡農林水産振興事務所、朝来農林振興事務所　　計15名
（4）内　容
①ドローンによる除草剤散布、②除草剤、
③ドローンによる薬剤散布仕様書等、
④除草剤の効果（散布現地）、⑤質疑応答

散布前の現地

散布３ヶ月後の現地

４　考察及び波及効果

ドローンによる除草剤散布は、作業時間が非常に短く、夏場の下刈り作業という過酷な作業からドローン操作、薬剤投入に集中するだけの作業に置き換わるため、労働安全性や労力の軽減に絶大な効果を発揮します。また、苗木への影響もなく、薬効が２年あり、低コスト化にも寄与します。ただし、ドローンは購入金額もさることながら、無人航空機の登録制度への登録、オペレーターは無人航空機操縦士の技能証明を受けること、農薬散布のための国土交通大臣（大阪航空局）の承認を取る必要があること等、実施は簡単ではありません。現在のところ、手続を代行するドローン運航会社に依頼し、除草剤散布の承認や除草剤散布用のドローンの運航をお任せする方法が手っ取り早い方法であるように思われます。

５　今後の取り組み

２年目の散布現場の効果を検証しつつ、必要な事業体によるドローンの共同利用等を含め、どのような方法が管内のドローンによる除草剤散布の実施に効果的であるか検討していきたいと考えています。

（森林第２課　井上　靖）

技術シリーズ

針葉樹人工林から広葉樹林への樹種転換後、8-15年が経過した箇所のいま

兵庫県立農林水産技術総合センター　森林林業技術センター　藤堂　千景

１．はじめに

兵庫県では平成16年の播磨、但馬南部の台風による大規模な風倒木被害や山腹崩壊をきっかけに、「災害に強い森づくり事業（以下、災森事業）」が行われてきました。その災森事業の一つである「針葉樹林と広葉樹林の混交整備（以下、針広整備）」では、面的に広がる針葉樹人工林に対して小面積皆伐を行い、部分的な広葉樹林化を目指しています。広葉樹林化の目的としては、林齢や樹種が多様な森林を整備することで、気象害に対する抵抗性を高め、災害に強い森林とするためです。広葉樹林化の目標林は、県下に多く広がり災害に強いとされている夏緑広葉樹林としており（図１）、比較的短期に高木性夏緑広葉樹による樹林化を目指すため、目標林の高木層を担うとされる樹種の苗木を植栽しています。また、ニホンジカ（以下、シカ）による食害を防ぐためのシカ排除柵（以下、シカ柵）やツリーシェルターも設置しています。

当センターでは、災森事業の事業効果検証として、針広整備地の追跡調査を行っています（兵庫県2010、2015、2020）。これまでの検証結果としては、部分皆伐直後は整備地からの土砂流出がみられ一部の整備地では整備後しばらくは土砂が流出すること、シカ柵は保守点検が必要なこと、整備地に見られる高木性夏緑広葉樹は植栽由来のものが多いこと、植栽後８-10年で樹高が３-５mになることを報告しています。

今回は、針広整備地の現状を広く把握することを目的に調査を行いました。

２．調査方法

平成18年から平成28年までに整備された災森事業（第１期分：平成18-23年～第２期分：平成24-28年）の針広整備地の中から31調査地を選択し、その中に10m×10mの調査区を１-２区設定しました。調査区内では多様性植生調査法に則った植物社会学的調査を行い、出現種、被度パーセント、階層構造を記録し、樹林化や夏緑樹林化の状況を解析しました。

樹林化とは、京都議定書の森林の定義に従い、５m以上植被率30%以上の樹木が存在する場所としました。夏緑樹林化とは、高木層（または一番高い層）において、夏緑樹種の被度パーセントがそれ以外の樹木の被度パーセントを上回る場合としました。

３．宍粟市一宮町東河内調査地の経年変化

平成18年に針広整備が行われており、当センターが針広整備のモデル地として継続的に調査を行っている宍粟市一宮町東河内の調査地の状況を見ると、整備後14年では高木層、低木層、草本層の３層構造になっており、整備当初から比べて階層構造が発達していました（図１）。森林の階層構造が発達すると、安定した森林になることが知られているため、整備後の年数が経過することで、安定した森林へと遷移していることがわかりました。高木層を占めている樹種は、高木性夏緑広葉樹が大半で、そのほとんどが苗木由来でした（図１）。

また、シカ柵の倒壊リスクを低下させるための手段として、保守点検があります。この調査地では苗木が大きくなるまでは保守点検が行われていましたが、それ以降は行われていません。そのため、シカ柵が倒壊してしまい、草本層がシカに食べられ、目標林と比べて草本層の植被率が小さくなりました（図１）。

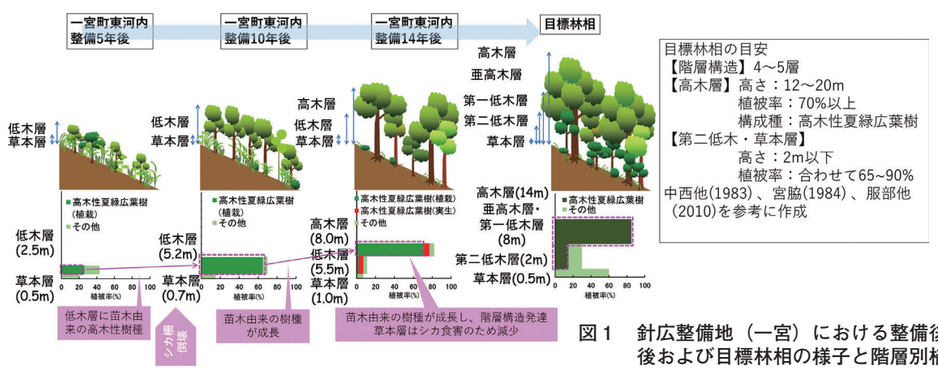


図１　針広整備地（一宮）における整備後５、10、14年後および目標林相の様子と階層別植被率

４．針葉樹林と広葉樹林の混交整備地の現状

31調査地（59調査区）の状況をみると、第１期の方が第２期よりも樹林化している箇所が多いことがわかりました（図２）。樹林化に至らない場合の主な原因はシカによる食害です。最大樹高は、シカ柵やツリーシェルターによってシカ食害対策が成功した箇所において、６-10mになりました。

樹林化している箇所の半分程度は、目標林である夏緑樹林に近づいていました。調査地内にみられる高木性夏緑広葉樹の多くは植栽苗木由来と思われ、天然更新によるものは多くは見られませんでした。このことは、天然更新による早期の夏緑樹林化は難しいことを示します。

樹林化はしているものの夏緑樹林化に至らない箇所も散見されています。夏緑樹林化に至っていない原因の多くは、シカによる苗木の食害です。シロダモのようなシカが好んで食べない樹種（シカ不嗜好性樹種）が高木層を占めている例もありました。一方で、シカの食害を防いだ箇所でも、植栽した苗木が天然更新してきた先駆性樹種との競争に負けてしまい、先駆性樹種が高木層の大半を占めているところも複数で見られました。

５．針葉樹人工林から高木性夏緑広葉樹林にするためには

今回の調査で、針葉樹人工林の部分皆伐を行うだけでは、高木性夏緑広葉樹が早期に天然更新する可能性は低いことがわかりました。したがって、夏緑樹林化を目指すためには、目標林の構成種である高木性夏緑広葉樹種の苗木を植栽する必要があります。植栽した苗木を成長させるためには、比較的成長の早い高木性夏緑広葉樹の導入や、苗木の成長を阻害するような先駆性樹種およびコシダの除伐・除去が考えられます。

また、今回の調査を通じて、兵庫県内で夏緑樹林化を行う場合は、シカ食害対策の必要性が改めて浮き彫りになりました。シカ柵（ステンレス線入りポリエチレンネット柵）は設置後１-３年でほぼすべての柵に破損が見つかることがわかっています（藤堂・藤木2017）。金網製のシカ柵であっても、設置経過年数が５年以上になると破損率が急激に高まることもわかっています（藤堂・藤木2017）。したがって、シカ柵の効果を維持するためには、定期的な保守点検が必要です。また、樹林化したからといってシカ柵の必要がなくなるわけではありません。図３にあるように、シカによる草本層の衰退は、樹林化した後も続きます。また、シカによる皮剥ぎにより樹高６m以上に成長した樹木が枯死した例もあります。いつまでシカ柵の維持が必要なのか、引き続き考えていく必要があるでしょう。

図３　草本層がなくなった針広整備地（一宮）

６．今後の課題

今回の調査は、「第４期災害に強い森づくり事業検証調査」の一環で行っています。令和６年度晩秋に調査を行った朝来農林振興事務所管内の調査データを加えた全県版の報告も近いうちに行う予定です。

参考文献：

服部他（2010）多様性植生調査法－生物多様性評価と数量的な解析を進めるための植生調査法－
兵庫県（2010）災害に強い森づくり事業検証報告書
兵庫県（2015）災害に強い森づくり事業検証報告書
兵庫県（2020）災害に強い森づくり事業検証報告書
宮脇（1984）日本植生誌 近畿
中西他（1983）日本の植生図鑑
藤堂・藤木（2017）植生保護柵としてのネット柵、金網柵の成績評価．兵庫ワイルドライフモノグラフ９

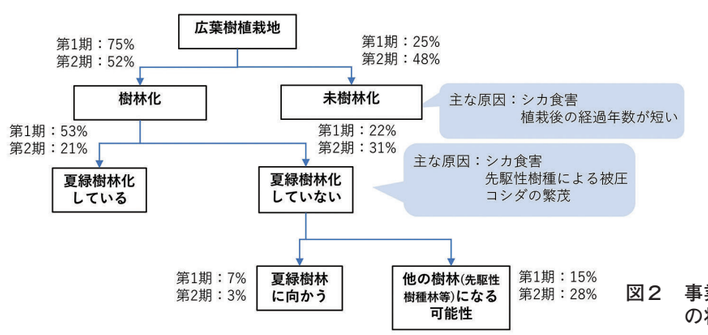


図２　事業地における樹林化および夏緑樹林化の状況（調査区数を100としている）

「ひょうごの木」Creation Baseの創設

兵庫県農林水産部　林務課　木材利用班

■はじめに

近年の消費行動は、良いものを安くという製品・サービス自体に価値を見出す“モノ消費”に加え、ストーリー性のある製品・サービスへの「共感」に価値を見出す“応援消費”を行う傾向にあります。

今後さらなる県産木材利用の促進を図るには、林業・木材産業に関わる方の想いや新たな取組に対する「共感」を得て、“応援消費”を引き出すことが必要です。

そこで、①ブランディング手法を用いて「ひょうごの木」への**想い**を明確化し、②今まで森林林業と関わりの無かった企業やクリエイターと協同して、「ひょうごの木」×「異分野」のコラボによる森林の新たな**価値**を生み出し、③それらの**想い**や**価値**の効果的なPRを企画するプラットフォーム“「ひょうごの木」Creation Base”を運営することにより、「ひょうごの木」のブランド化を推進します。

■ひょうごの木×ウイスキー樽

「ひょうごの木」Creation Baseメンバーである丹波市の（株）西山酒造場は、平成26年の豪雨災害で酒蔵が土砂崩れの被害に遭ったことをきっかけに、地元の森林整備に少しでも貢献しようと、自社レストランで県産木材のトレーやメニューブックを導入しています。令和４年からはウイスキーの生産に着手し、今後の展開として「ひょうごの木」を使用した樽で熟成させることで、地産地消にこだわる想いをブランドに取り入れようと、同じくメンバーである（有）ウッズとともに地元に生える樹木を使った樽づくりに挑戦しています。

県産木材のプレート

■ひょうごの木×カフェ

メンバーの萩原珈琲（株）の代表取締役　萩原　英治氏は、大学時代に森林や昆虫について学んでいた経験を活かし、先代から会社を継ぐにあたって何か森林保全につながるような事業ができないかと考えました。そこで、珈琲豆の焙煎に使う炭について、令和２年３月には国産使用率０％だったものを、令和３年９月には100％国産化を達成しました。今後は、より近い地域で生産される炭に切り替えられればと挑戦を続けています。

また、神戸市役所１階の直営店 127 番地では、地域の食材をふんだんに使ったランチパックを販売しており、令和６年11月からはNPO法人バイオマス丹波篠山が製作する県産木材の割り箸を導入するなど、多方面で地産地消を進めています。

県産木材の割り箸がついたランチボックス

■第１回ミーティング

上記メンバーに加え、須磨寺の小池　陽人　氏やイベント企画などを手掛ける（一社）GREENJAM、飲食チェーンを展開する（株）ワールドワンなど22名に参加いただき、「ひょうごの木」への想いをブランディングするため、「木と人の関係性」について県広報広聴課 広報プロディーサー 有田 佳浩 氏のファシリテートのもと、ディスカッションを実施しました。

■第２回ミーティング

（有）ウッズの製材所及び木工所の見学を行い、本事業のコーディネーターを務めるSHAREWOODS代表 山崎 正夫 氏の取組を紹介していただきました。その後、有田氏のもと「木を扱っていて楽しい瞬間」について、参加者23名でディスカッションを実施しました。

製材所の中でミーティング

■まとめ

林業・木材産業に携わる方、今まで関わりのなかった異分野の方、ぜひご参加ください。

参加要件等の詳細は以下のQRコードからご確認ください。　　（林務課　和田　佳子）

ひょうごの木の物語

第11回　ハゼノキの実から造る伝統の和ろうそく

「有松本商店」（西宮市今津水波町）

概要

木ろうによる和ろうそくは、寺院を中心に利用されています。室町時代に中国から渡来し、江戸時代に最盛期を迎えましたが、明治以降は西洋ろうそく（パラフィンを原料）の普及により減少の一途を辿りました。近年では、インテリアとしての『和の灯り』や絵ろうそくなど家庭での利用も増えつつあります。特に若い女性に、“明かり”と“香り”を楽しむアイテムとして静かなブームとなっています。

和ろうそく店は、全国で20軒ほど、県下では、西宮市の松本商店（代表取締役　松本恭和氏）１軒のみです。

木ろうについて

木ろうの原料は、ハゼノキの実から抽出・精製された油脂で、海外ではジャパンワックスとして知られています。

木ろうの用途は、昔から生活に欠かせない鬢付け（びんつけ）やローソクとして使われ、現在でも力士のまげには欠かせない貴重なものです。このほか、口紅や乳液、軟膏、座薬、クレヨン、色鉛筆などに使われ、環境にやさしい自然素材であることから、木ろうの市場性は極めて高いと評価されています。

１ 晩秋のハゼノキ

２ ハゼノキの実

ハゼノキは、県内にも自生していますが、特に九州、四国西部に多く自生し一部では栽培されています。ハゼノキは植栽４年目で若干の結実を始め、その後、数十年にわたり収穫が可能で、収穫期が晩秋の農閑期であるため農家の副業に適しています。

和ろうそくの製造

製造方法は、一本一本を手で作る『清浄生掛け（しょうじょうきがけ）と、型に流して本数まとめて作る『型流し』があります。『清浄生掛け』では、木ろう純度100％のうえ、すべて手づくりなので一本一本同じものはなく、ろうの中では最高級といわれてます。『型流し』では、絵ろうそくや仏壇用など用途に応じて木ろうに、「米ぬかろう」や「とうもろこしろう」など植物性のろうなどをブレンドし、外見上同じ製品が数多く出来上がります。

３ 両手の感覚で「塗っては乾かし」を繰り返し目的の太さに仕上げる

４ 型流しによる作業

５ 寺院へ納めるろうそく

松本商店の取り組み

松本商店は、北九州の製ろう所から、固形の木ろうを仕入れ、製品づくりを行っています。４代目恭和氏の先代までは、寺院への販売のみでしたが、恭和氏の代から、和ろうそくの特質である炎の揺らぎ・表情、純植物性であることなど若い人の感性と目線で、絵ろうそくをはじめ種々の製品を開発し、家庭用にも販路を拡げられました。また、ネットでの販売やSNSを活用したPRなどにより、現在では、販売額の３割は一般家庭用が占めるということです。

６ 絵ろうそく

７ 絵付け作業

８ 松本恭和氏と店舗玄関

恭和氏は、震災前に銀行員から転身された当初は、機械化や合理化ばかりに躍起でしたが、震災で工場や機械などの多くを失った反面、手づくりの素晴らしさ、自然のものの大切さに気付かされ、今に至ると語られています。阪神久寿川駅下車、南側を線路沿いに西に２分、一度足を運ぶ価値あり是非お立ち寄りください。

（ひょうごの木の物語」取材チーム 菅原 健）

非住宅木造建築研修会「JAS製品の供給体制の強化」

兵庫県木材業協同組合連合会　戸田政宏

1．日時：令和6年12月13日（金）13：00～16：30
2．場所：兵庫県立農林水産技術総合センター
森林林業技術センターほか
3．内容（研修会での各講師の説明要旨）

（1）改正建築基準法等の施行について

HALO木構室：代表（一級建築士）髙見 和人

・令和７年４月以降法改正により、以前と比べ建物の安全性がより求められるようになる。（構造計算の重要性が高まる）
・新築住宅の着工戸数は減少が予測される一方、中大規模木造やリノベーションでの木材需要の高まりが予想される。
・市場に出ている国産材の大半が無等級材として扱われているため、木材の持つポテンシャルを十分に生かしきれてない。また、無等級材は強度が保証されていないため、安全性に疑問がある。
・このため、JAS製品の流通を増やしTAPOS® 仕口（兵庫県立森林林業技術センター開発）を活用することで、住宅から中大規模木造建築まで様々な建物の安全性を無垢材で確保できる。

（2）JAS制度の概要と県内のJAS製品供給体制について

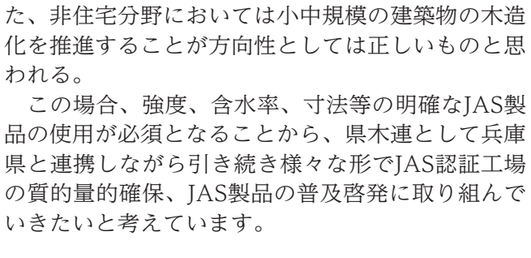
兵庫県木材業協同組合連合会：専務理事 戸田 政宏

・木材（農林物資）は、そのままでは強度などの性能にばらつきがある。
・JAS（日本農林規格）で定められた基準に応じて区分することにより、適材適所に利用できる。
・曲げ強度の区分については、目視等級区分と機械等級区分の２つがある。
・目視等級区分は、強度に影響のある節、割れ目等を目視で評価（１級、２級、３級に区分）、機械等級区分は機械等級区分装置（グレーディングマシン）により曲げヤング係数を測定して区分（E50,E70,E90,E110,E130,E150）
・これらの区分した数値は、建築基準法関係告示において定められている基準強度と結びついている。
・よって、強度等を区分することにより、構造計算において最適な木材の利用が可能
・県内のJAS製品の供給体制については、兵庫県木材業協同組合連合会が発行している「兵庫県産木材―主な取扱事業者―」を参照

（3）スギ大径材の価値を高める新たな木取りの提案について

兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター：専門技術員　浅田 佐知子

・県内の人工材は大径化が進んでいる。
・大径材になると単価が低くなる傾向
スギ材の市場価格例
材長４m、末口直径28㎝　m³単価15,000円
材長４m、末口直径44㎝　m³単価11,000円
・丸太価格と需要の関係
〇末口直径28㎝：「柱材」など用途が明確、生産設備が整っている、取引価格が安定
〇末口直径44㎝：最適な製品・木取りが未確定、生産設備が整っていない、取引価格が低迷
・新たな木取りの提案
上下心去り平角、平角残部からの柾目板の生産



・新たな木取りによる木造建築への適用

・現在、宍粟市内の製材工場が上記提案の趣旨を踏まえ、上下心去り平角材等の機械等級区分構造用製材のJAS認証を申請中

4．今後の展開

全国的な新築住宅着工戸数の減少は構造的なもので、20年後には現在の80万戸が50万戸になると言われており、成熟する県産木材の利用促進を図って行くためには、住宅においては今まで県産木材が使われてこなかった横架材に利用していくこと、また、非住宅分野においては小中規模の建築物の木造化を推進することが方向性としては正しいものと思われる。

この場合、強度、含水率、寸法等の明確なJAS製品の使用が必須となることから、県木連として兵庫県と連携しながら引き続き様々な形でJAS認証工場の質的量的確保、JAS製品の普及啓発に取り組んでいきたいと考えています。

県産広葉樹苗木生産者育成研修で、広葉樹苗木生産を目指した担い手を育成

兵庫県林業種苗協同組合

新しい苗木生産技術を活用して、その地域にあった優良な広葉樹苗木を養成する「県産広葉樹苗木生産者」の育成を図るため、県林業種苗協同組合が、県から委託を受けて、県産広葉樹の苗木生産者の育成研修を実施しました。

専門的な育苗技術を身に付けていただく専門コースでは、北部コース（10月８日）、南部コース（10月15日）の２日間に県立森林大学校や生産者の苗圃で開催し、延べ21名が参加しました。

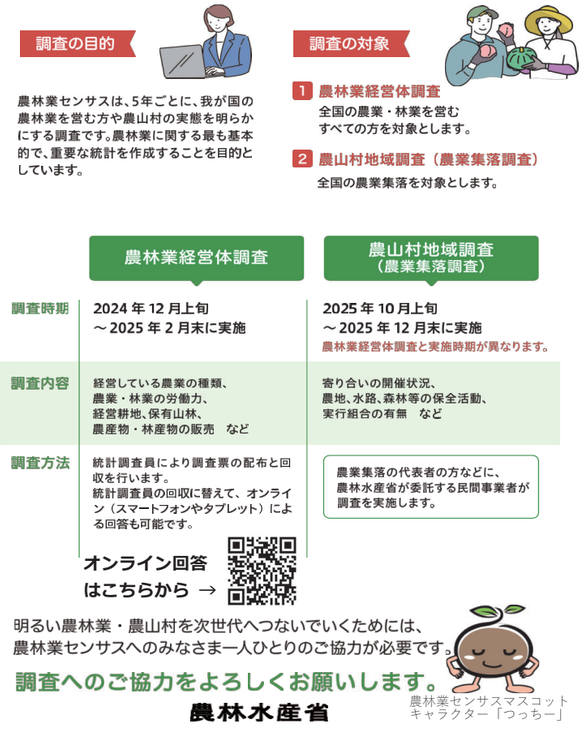
講義・実習の様子

主に、広葉樹種子の採種・生産管理や広葉樹苗木の育苗方法について学び、コンテナ培地に小さなコナラやケヤキの毛苗を移植する作業や育苗箱にコナラのドングリの播種、播種床に線状に細い溝を掘りドングリを植え付ける実習を行いました。

また、専門コースのほか、県産広葉樹苗木生産に関心を持っていただくため、１日だけの公開講座も併せて開催しました。

公開講座は、10月１日に県立森林大学校で行い、18名が参加しています。

公開講座では、当組合の池本理事長らが講師となって、「広葉樹コンテナ苗木の生産・管理」について具体的に育苗方法を示しながら講義を行いました。また、そのほか、「広葉樹苗木生産の現状と課題」や「広葉樹の樹種特性」、「シカ不嗜好性広葉樹の特性と活用」のほか、「広葉樹の利活用」についても学んでいただきました。来年もこの研修を実施していく予定です。　（専務理事　岩村　裕）



兵庫JCC協同組合研究・交流会を開催しました

兵庫JCCとは

兵庫県の生協・農協・漁協・森林組合で構成する組織。協同組合間交流を通して協同組合運動の相互連携を図り、よりよい社会づくりを目指している。

「兵庫JCC協同組合研究・交流会」とは

兵庫県内の協同組合間の職員の交流と協同組合間協同を目的に、2008年度から実施しており、今年度はひょうご森林林業協同組合連合会が幹事となり、企画した。

1. 今回の研究・交流会の内容

今年のサブタイトルは「～林業の役割を学んでみませんか？～―川上から川下へ」と設定し、一つの場面だけでなく、森林組合を含めた川上から川下までの各事業体・関係者の取り組みや想いについて、木材を利用する事業者と消費者が知ることで林業を体系的に学ぶことを目的とした。

募集チラシ

2. 当日の詳細

本交流会は令和６年11月６日（水）に開催された。参加者は生協関係者が20名、農協関係者が２名、漁協関係者が６名、事務局３名の計31名だった。

当日のスケジュール

時　間	見学場所・内容	役　割
8：15	ＪＲ神戸駅 集合・出発	
10：30	しそう森林組合 森林整備	川上
昼　食		
12：30	山崎木材市場 紅葉特市	川中
15：00	宮下木材 製材所内	川中-川下
17：30	ＪＲ神戸駅 帰着・解散	

2-(1). しそう森林組合

午前中は「川上」の見学現場として、しそう森林組合が令和３年度より整備を行っている宍粟市波賀町上野地内の事業現場を訪問した。しそう森林組合の松本林産販売課長による事業の説明後、実際に現場作業班に伐倒～搬出までの一連の作業の流れを実演頂いた。

伐倒中

立木の伐倒やプロセッサーの動きを初めて生で見学する参加者が多く、作業時には歓声があがった。また、スギとヒノキの断面の見分け方や林業や木材業独特の“㎥あたりの単価設定”や面積を“ha”で表すことについてなど様々な質問が多く飛び交った。

現場は約50年生のスギ人工林

2-(2). ㈱山崎木材市場

午後は「川中」の見学現場として、㈱山崎木材市場へ向かった。バスが木材市場に到着すると、ちょうどセリが始まった。20名以上の買付業者が積み上げられた丸太（椪）を囲んで、単価が決まるごとに人の集まりが移動していった。訪問した11月６日は“紅葉特市”と呼ばれ、普段よりも全体の丸太量が多く、特に揖保乃糸素麺の箱の材料となるモミの出材量がかなり多かった。

セリを30分ほど見学した後は、事務所の２階へ移動し、東取締役副社長から、山崎木材市場の成り立ちや変遷等についてご説明頂いた。

セリの様子

セリ見学後は事務所でミニ講義

2-(3). ㈱宮下木材（㈱宮下）

山崎木材市場を見学した後は、神戸へ帰る道中にある加東市の㈱宮下木材を訪問した。ここでは、浮村代表取締役社長に事業内容の説明と工場をご案内頂いた。

自走型大型製材機を見学

また、当連合会が神戸市の森林整備事業において伐採した原木から製材した神戸市産（六甲山）材も紹介頂いた。浮村氏によると「縦割れが大きいので内装は不向きであるが、ウッドデッキなどの外装には非常に適している」とのことだった。

最後は地域産材で作られた社員休憩室にて、質疑応答に応えて頂き、１本の丸太からどんな製品がどんな値段・価値で流通していくのか等を教えて頂いた。

3. 参加者の声

「自分では行くない場所なので参加しました」「立っている大きな木の伐採を生で見たことがなく楽しみにしていたので、見れて良かった」「実際に伐採を見ると迫力がありました」「現場を見せていただく機会をありがとうございます。大変良かったです」

「セリは初めて見ました」「現場を見るのはとても楽しく良かったです」「兵庫県の木を使うようにしたい（意識するようにしたい）」「木材市場のセリ子や買い付け業者に女性がいないのが気になった」「木材の競りは魚の競りよりもテンポが遅かった」「地元の木材で漁協の工場を建て替えたかったが、当時は兵庫県産材の入手方法が不明瞭で施工者に高くなると言われて断念した経緯がある。一般消費者や公共建築以外でも地域木材を使いやすくなる制度や事業はないのか」など

地域産材で作られた社員休憩室

4. 事務局の振り返り

・今回は他の森林や木材のイベントでも意外と事例がなかった林業の川上から川下までを連続的に見学することで、「点」ではなく「線」として体験頂けたのが良かったです。

・ご参加頂いた方からの“直前の現場”での疑問が“次の現場”で回答として回収されることが多かったので、より理解を深めて頂けたのではないかと思いました。

例１：森林整備現場で実際に伐採した丸太の値段を知りたい→木材市場で見学した森林整備現場の丸太が実際にセリにかけられている）

例２：木材市場を見学後、「兵庫県木材はどこで買えるのか？どんな商品があるのか？」という疑問に対して→次の製材所（宮下木材）にて説明

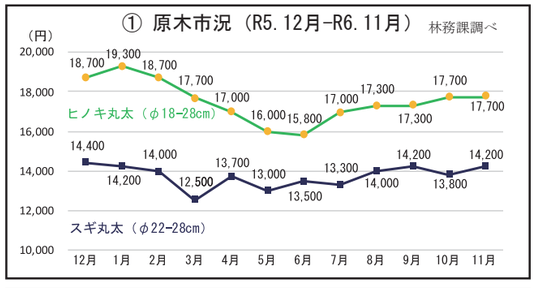
・本交流会後に農林水産部林務課木材利用班様より、兵庫県産材に関する消費者や事業者が利用できる事業メニューをまとめて頂いたので、兵庫JCC内部で共有しました。

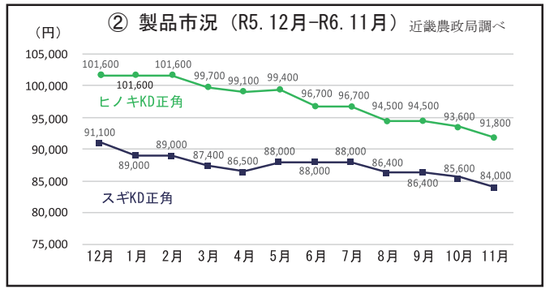
最後になりましたが、この度はお忙しい中、非常に分かりやすいご説明と丁重なご対応をして頂きましたしそう森林組合様、㈱山崎木材市場様、㈱宮下木材様に深くお礼申し上げます。ありがとうございました。

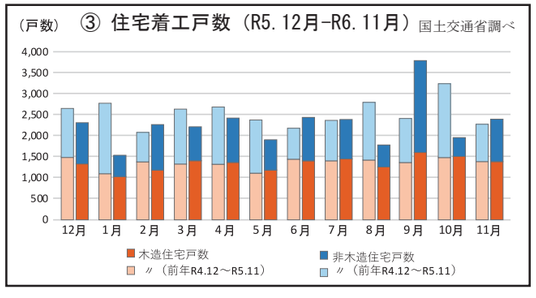
（ひょうご森林林業協同組合連合会　河合貴則）

＜兵庫県内の原木市況・製品市況・住宅着工戸数＞

・原木は、建築向け需要が低調な一方、バイオマス発電向けの引き合いが強く、スギは並材の底値が平均単価を押し上げている。原木入荷量の減少が長引き、ヒノキの原木価格は７月以降17千円台で推移している。
・製品は、関西のプレカット工場の稼働率が秋以降持ち直したものの、県内の製品価格は下落傾向が続き、仕入れ高・コスト高もあって製材工場の収益性は低下している。
・県内の木造住宅の着工戸数は、４月以降は前年同月並みを維持しているが、建築コスト高騰により床面積は全国同様に縮小傾向が続いている。







（公社）関西経済連合会主催“企業の森づくり”体験会が県立宝塚西谷の森公園で開催されました

■はじめに

関西で経済活動をされている企業や団体等を会員（約1,300）とし、本県とも関係が深い（公社）関西経済連合会（以下、関経連という。）が、社会貢献活動を検討されている会員企業等を対象とした森づくり体験会を開催されましたので、ご紹介します。

■開催日時、場所

令和６年11月12日（火）９：30にリンクス梅田に集合され、現地集合組も合わせて総勢20名（14社・学校法人）が参加されました。

左：中村公園長による挨拶
右：募集チラシ

会場は、県立ふるさとの森公園の一つである「宝塚西谷の森公園（宝塚市境野地区）」です。新名神高速の宝塚北スマートインターを使用すると大阪市街地から車で１時間程と、アクセスが良い点も好評でした。

■森づくりの意義、本県の企業の森づくり制度概要

本県では、企業等多様な主体による森づくり活動を推進しています。この活動は、企業による社会貢献活動の選択肢の一つですが、まずは、なぜ森づくりが必要なのかを理解いただく必要があります。

そこで、ひょうご森林林業協同組合連合会の山田裕司・ひょうご森づくりサポートセンター長から森づくりの意義について詳しくお話をしていただきました。

その後、県から企業の森づくり制度の概要を説明し、県や市町で管理運営する森林公園等で1～3ha程度の区域を設定し、春と秋の年２回、社員の家族も参加のうえ継続的に活動されている事例などを紹介しました。

■森づくり作業の体験

午後からは、ひょうご森林林業協同組合連合会の安全指導のもと、同公園「東の谷」の里山林にて、ソヨゴやヒサカキなどの照葉樹等を除伐する作業体験をしていただきました。作業後、陽光が林床まで差込む様子に参加された皆さんのお顔から笑み。作業の意義を実感いただけたものと思っています。

■既活動企業による取組紹介

最後に、室内に戻り、小野市と多可町で森づくり活動に取組む川崎重工業（株）から自社の事例をご紹介いただきました。参加者からの質問にも丁寧に対応いただきました。

手ノコを使っての伐倒作業

作業後の集合写真

（県治山課森づくり普及班　井上裕司）

編集後記

新年おめでとうございます。今年もよろしくお願いします。今月号は、＋４ページの増量号です。

「資源循環型林業の推進」に林業関係者だけが真正面から取り組んでも、どうもうまくいかない、突破口が見つからず八方塞がりに陥りかねないと感じるときが、ままあります。

今年度中盤には、県や林業団体等による異業種や異分野の人たちとの交流の場や研修会がいくつか開催されました。

思いも寄らないところに、ニーズや木材の見方や使い方があったり、実際、異分野とのコラボが芽生えたりと、そのような中に将来の大きなヒントがあるのかもしれないと感じ、新しい流れになることを期待しまして、紙面増とさせていただきました。

昨年の様々な選挙などでSNSの威力を痛感しました。反面、フェイクニュースが拡散し、誹謗中傷が飛び交う負の連鎖も起きました。私たちは、SNSなど情報の洪水の中で何が真実であるかをしっかりと、自分で見極めて行かねばならない時代がやってきたのです。

さて、今年は震災から30年の節目の年です。現代版ことわざ「天災は忘れていなくてもやって来る」「備えなければ憂いあり」まず、できることからやっていきましょう。

（編集事務局）

災害のない安全で安心な社会

●治山、林道、造林事業の推進
●山地防災・土砂災害対策計画

一般社団法人　兵庫県治山林道協会
〒650-0012　神戸市中央区北長狭通5丁目5-18
TEL:078-371-0210　FAX:078-371-6632
HP　兵庫県治山林道協会

三井化学グループ　**エムシー緑化**の松枯れ防除剤

松枯れ防止樹幹注入剤
マツガード®
マツガードクイック®
ハダニの適用拡大

マツノマダラカミキリ後食防止殺虫剤
マツガードフラッシュ®

販売元　**正和商事株式会社**
〒541-0045 大阪市中央区道修町1丁目3番4号
TEL 06-6203-4541　FAX 06-6203-4347

匠 ひょうご木の匠

ひょうご木の匠の会　私たちは、兵庫県産木材を使い、人と環境に優しい木造住宅を提案し建築します。

兵庫県産木材の家

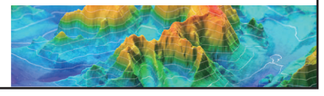
ひょうご木の匠の会 会長　日置尚文（日置建設㈱）
（事務局）　神戸市中央区北長狭通5-5-18 兵庫県林業会議
https://hyogo-kinotakumi.com　TEL:078-351-3341

“治山・林道測量”
は経験と実績のある

株式会社 **石原測量コンサルタント**

〒671-2542
兵庫県宍粟市山崎町船元250-1
Tel (0790)63-1377
FAX (0790)63-1398
E-Mail ishisoku-y@wine.ocn.ne.jp

国土交通省登録第２４８９１号
県知事許可(般-2)第４６１４８１号



緑の募金へのご協力をお願いいたします

いつも緑の募金にご協力いただき、ありがとうございます。
緑の募金は、森林ボランティア活動への支援や、
子どもたちの環境学習などに活用しています。
ご協力いただける場合は、次の方法でお願いいたします。

●賛助会員入会のご案内●
私たちの活動を応援してくださる
賛助会員を募集しています。
入会金は不要です。
会員としてご支援いただきますよう
お願いいたします。（1口10,000円/年）

ご寄附の方法

1 **金融機関からのお振込み**
①郵便局（手数料不要）
専用の払込取扱票をお送りしますので、当協会にご一報ください。
②銀行（手数料必要）
口座：三井住友銀行 兵庫県庁出張所
普通 3198438 公益社団法人兵庫県緑化推進協会
2 **キャッシュレス決済**（手数料不要）
ソフトバンクの「つながる募金」からキャッシュレスでご協力いただけます。

募金のページQRコード

◇お問い合わせは◇
公益社団法人　兵庫県緑化推進協会
〒650-0012　神戸市中央区北長狭通5丁目5番18号
TEL 078-341-4070　FAX 078-341-4071
HP https://hyogo-green.net/
兵庫県緑化推進協会　検索

Husqvarna

■540XPMarkⅢ

■質　量：4.1kg
■排気量：39.1㎤
■出　力：2.8KW

■T540XPMarkⅢ

■質　量：3.8kg
■排気量：39.1㎤
■出　力：2.8KW

本当の価値がわかる方へ！

最高のパワーウェイトバランスで耐久性も抜群。
生産性をさらに高めるチェンソー
革新的な技術を融合し、これまで以上の加速とトルクで他に類のない鋸断能力を発揮します。
新登場540XPMarkⅢ、ぜひお試しください。

愛　林　興　業　株　式　会　社

本　社	姫路市飾磨区恵美酒294-3	TEL(079)234-8181㈹
神崎店	神崎郡神河町吉冨1409-2	TEL(0790)32-0570番
但馬店	養父市上野1357	TEL(079)664-2101番

水源地域で公益的機能が発揮される森林を育成しています
緑をはぐくみ 水をつくる

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林整備センター Forest Management Center

FMC

水源林造成事業

●国民生活に不可欠な水の安定供給や国民の生命・財産を守るため奥地水源地域で水を育む森林を造成しています。
●奥地水源地域の保安林の、土地所有者自身による森林整備が困難な木の生えていない荒れ地で、公的なセーフティネットとして森林を造成しています。
●森林を再生し、水源かん養や土砂流出・崩壊の防止を通じて「緑のダム」としての機能を確保しています。

神戸水源林整備事務所　TEL(078)362-5800
兵庫県水源林造林協議会 TEL(078)351-3341
〒650-0012　神戸市中央区北長狭通 5-5-18
（兵庫県林業会館5階）

詳しくはWebサイトをご覧ください　森林整備センター　検索

入札情報 物品・役務等
採用情報
分収造林契約をお考えの方

土と水と緑の技術で社会に貢献します。

コンサルティング事業	インフラ整備・メンテナンス	研究開発
斜面防災｜治山・林道	地すべり防止工事	InSAR｜BIM/CIM
河川・砂防・海岸	斜面・のり面工事	シミュレーション技術
地盤環境｜環境・緑化	インフラメンテナンス	空間情報技術

国土防災技術株式会社

神戸支店
神戸市中央区浜辺通２丁目1番30号（三宮国際ビル）
TEL:078-221-2213

但馬事業所
養父市八鹿町高柳字岸の下137番地の4
TEL:079-662-7108

▼会社HP

兵庫の林業 第三一一号
一般社団法人
兵庫県林業会議発行
神戸市中央区北長狭通五―五―十八（兵庫県林業会館内）
電話〇七八―三五一―三三四一
ウニスガ印刷株式会社
西脇市野村町四七一
電話〇七九五―二二―三二二六

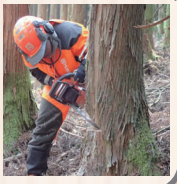
森林・林業・木材に関わる仕事人を育てる専修学校！

兵庫県立森林大学校　令和７年度入学生募集

＜出願期間：2/14（金）～3/17（月）、入学試験：3/14（金）又は3/25（火）＞

こんな人、森林大学校で学びませんか？

- 自然の中で体を使って働きたい！
- 木の香りに包まれて働きたい！
- ＳＤＧｓなど、地球環境に貢献したい！
- 資格取得をして、有利に就職したい！
- 林業や木材に関わる公務員になりたい！
- 大学に編入学して学びたい！



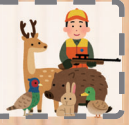
学校概要

所在地：兵庫県宍粟市一宮町能倉７７２－１
修学年数：２年、定員：20人
入学考査料：2,200円、入学料：5,650円
授業料：月額9,900円、その他経費：２年間で80万円程度

森林大学校の魅力ポイント

❶林業だけでなく、幅広く学べる！

林業や木材のほか、森林セラピー、ジビエ、造園まで幅広く学びます。



❷多彩な講師陣から学べる！

大学教授や研究者のほか、行政職員、プロの職人まで、経験に基づく実務を学びます。

❸20種類もの資格取得が可能！

チェンソーや高性能林業機械、希望に応じ狩猟免許や樹木医補等幅広く取得できます。

❹実践的な技能の修得で、即戦力に！

概ね半分以上の実習のほか、インターンシップ等により、即戦力を目指します。

❺最新の知見を学び、次代のリーダーに！

ＧＩＳ等のスマート林業や最新の知見を学び、様々な課題に対応できる能力を養います。

❻リーズナブルな学費！

県立高校並みの費用のほか、日本学生支援機構の奨学金や授業料免除制度もあります。

❼学費・生活費の手厚い支援！

林業就業を条件に、緑の青年就業準備給付金として最大142万円／年を給付します。

❽遠方者も安心の通学支援！

月１万円程度のシェアハウスと、賃貸住宅下宿費補助最大１万円を宍粟市が支援します。

❾卒業後、大学へ編入学可能！

卒業後に、林学や自然環境科学等の４年制大学へ編入学するための試験が受験できます。

❿卒業により、専門士を認定！

西日本唯一の専修学校の専門課程として、履歴書に学歴として記載ができます。

【入学試験】

入試区分	推薦入試（自己、事業体）【第２回】	推薦入試（自己、事業体）【第３回】
	一般入試【第２回】	一般入試【第３回】
試 験 日	令和７年３月１４日（金）	令和７年３月２５日（火）
出願期間	令和７年２月１４日（金）～３月４日（火）	令和７年３月５日（水）～３月１７日（月）
試験時間	１０時００分～１７時００分（面接順により早く終了する場合あり）	
試験会場	兵庫県立森林大学校（兵庫県宍粟市一宮町能倉７７２－１）	
試験内容	（推薦入試）小論文（400字程度）２題、面接（15分程度）	
	（一般入試）小論文（400字程度）１題、数学（高校数学Ⅰ・Ⅰ Ａ程度）、面接（15分程度）	
合格発表	令和７年３月２１日（金）	令和７年３月２８日（金）

出願資格

〇共通（自己･事業体･一般）
- 令和7年4月1日現在、40歳以下で、高等学校を卒業又は同等の学力を有する方

〇自己推薦
- 経験を活かし、経歴、能力、資質などを理由に、自ら推薦できる人

〇事業体推薦
- 林業分野の事業体の長が、責任をもって推薦できる人

問合せ
専修学校　兵庫県立森林大学校
〒671-4142　兵庫県宍粟市一宮町能倉772番地１
ＴＥＬ：0790-72-2700　ＦＡＸ：0790-72-2701
E-mail：c_shinrin@pref.hyogo.lg.jp

兵庫県HP